

# 長雨・日照不足対策

## 10月上旬

### 水 稲

#### 1 品種別の留意事項

##### 1) 「ヒノヒカリ」

穂発芽耐性が「コシヒカリ」並に強いが、穂発芽の発生が認められる場合は、成熟期になり次第、速やかに刈り取る。

##### 2) 「おいでまい」

穂発芽の発生が認められる場合は、成熟期になり次第、速やかに刈り取る。

#### 2 収穫作業

1) 落水口を完全にあげ、天候が回復次第、すぐにコンバインが入れるよう排水を図っておく。水尻が少しでも高いと滞水するので、鍬等で排水溝を切って完全落水とする。

2) 高水分での収穫となるので、コンバインの走行速度を落とすか、あるいは刈り取り条数を減らして収穫作業を行う。

3) 穂発芽粒の混入を最少限に止めるため、無倒伏部分と倒伏部分を別々に収穫・乾燥を行う。

#### 3 乾燥作業

1) コンバイン袋内での蒸れや穂発芽を助長しないように、収穫後は直ちに（遅くとも4時間以内）乾燥作業に移る。カントリエレベータへ搬入する場合は、搬入に要する時間を考慮する。

2) 乾燥初めは通風乾燥として籾水分のむら直しを行った後、熱風乾燥を行う。乾燥温度は通常より低めで行う。

### 大 豆

倒伏、根腐れ、下葉の黄化対策として排水に努める。

紫斑病防除は、他の害虫防除とともに防除する。

### 野 菜

1 長雨寡日照により湿害や軟弱徒長、病害が増加する。このため病害対策と排水対策を実施することが大切である。風通し、日当たりが悪いと病害が拡大しやすいので、株元や重なっている葉の除去に努める。

特に、べと病、灰色かび病、炭疽病等の病気の被害が拡大しやすい状態になっている。被害拡大防止のため、早期に病葉や病株を除去し、ほ場外へ搬出することが重要である。そして、雨の間の晴天日に、防除暦、防除指針に従い、適期防除に努める。雨天後は、葉や茎が軟らかく、薬害が発生しやすいので、基準濃度の範囲の薄い濃度（例：2,000～3,000倍の場合、3,000倍）で散布する等、注意して薬剤散布を行う。

栽培中の場合、水が溝にたまった状態になると根腐れが発生しやすいので、排水を徹底する。

果菜類では、曇雨天が続くと開花、結実がスムーズに進まない。草勢が弱りやすいので、摘花や摘果等を行い、着果負担を軽減し、葉面散布剤を散布し、草勢回復に努める。

草勢の回復を図るため、葉面散布剤で追肥する。また、肥料が流亡しているので、草勢を見ながら早めに追肥する。

#### 2 露地野菜

##### 1) ほ場の排水

ほ場周囲に排水溝を掘り、排水の徹底を図る。

特に、定植直後のレタス、ブロッコリー、キャベツ、播種直後のナバナは湿害に弱いので注意する。

##### 2) 病害防除

①ネギでは、べと病、疫病、白絹病等の発生が懸念されるので、防除を徹底する。

②秋キュウリは、べと病、斑点細菌病等が発生しやすいので、雨後の防除を徹底する。

③ブロッコリー、キャベツ等のアブラナ科野菜では、細菌性の土壌病害や立枯れ性病害、菌核病等に注意し、早期に防除を行う。

④レタスは腐敗病、べと病が発生しやすいため、早期に防除を行う。

⑤金時ニンジンには、黒葉枯れ病に注意し、早期に防除を行う。

### 3 施設野菜

#### 1) 排水

ハウス周囲に排水溝を整備し、ハウス内への浸水を防止する。

#### 2) ハウス管理

アスパラガスのハウスでは、高温対策の遮光資材を除去し、採光性を良くする。

#### 3) 病害防除

①ハウスキュウリは、べと病、炭疽病、灰色かび病、菌核病の発生に注意し、防除指針を参考にして系統の異なる薬剤をローテーションで散布する。

②トマト（ミニトマトを含む）は疫病、灰色かび病、菌核病、葉かび病の発生に注意し、防除指針を参考にして系統の異なる薬剤をローテーションで散布する。

③ハウス内では湿度が高い状態が続いているため、薬剤防除にあたっては、燻煙剤の利用を考える。

## 果 樹・オリーブ

### 1 共通事項

1) 長雨による停滞水の影響で根の活力が著しく低下し、樹勢の衰弱や落葉、枯れ枝の発生等が予測される。このような園では、明きょ等により早急に停滞水を排除する必要がある。

2) 降雨により耕土が流出し、根が露出している場合は、客土等により覆土する。

3) 敷き藁を実施している園では、根元に藁を集めて土壌表面からの水分蒸散を図り、品質低下を防止する。

4) 害虫の多発が予想されるので、雨後の薬剤散布を徹底する。

### 2 柑橘類

1) 園内に溝を掘り排水に努める。

2) 夏秋梢が多発している場合は切除する。

3) 害虫防除として、褐色腐敗病発生のおそれがある園では防除暦（異常発生）に従って、農薬を散布する。

### 3 キウイフルーツ

1) 停滞水の影響が最も大きい果樹であるので、排水には特に留意する。

2) 落葉が著しい園で、新たな枝が発生している場合は、4～5枚で摘心し、液肥を葉面散布して枝の充実を図る。

3) 被害園の果実は別収穫して区分貯蔵する。

4) 病害防除として、果実軟腐症の対策としての薬剤散布を行う。

### 4 カキ

1) 耐水性は強いが、停滞水によって根の活力が低下するので、排水を心掛ける。

2) 病害防除では、炭疽病対策として、防除暦を参考に農薬を散布する。

### 5 オリーブ

1) 停滞水により根の活力が低下するので、排水対策を行う。

2) 病害防除として防除暦を参考に炭疽病の農薬を散布する。

## 花 き

### 1 施設内管理

1) 昼間は十分に換気を行う。雨天時には、換気扇による換気、温風暖房機による間断送風等を強制的に行う。

2) かん水は必要最小限に止め、こまめに行う。また、株元にかん水し、植物体に掛けないようにする。

3) 農薬による防除はできる限り燻煙、煙霧等を取り入れ、噴霧器による薬液散布は必要最小限に止める。薬液散布を実施する場合は、施設を密閉するまでに薬液が乾くようにする。

4) 生育や商品価値に支障がない限り、下葉や余分な枝は除去して、通風採光を図る。

5) り病部分はできる限り除去し、直ちに施設外へ搬出して処分する。

6) 寡日照が続く中で晴天は、急激な気象変化をきたし、葉焼け、茎折れ等を起こしやすいので、換気等により高温防止を図る。

7) 施設周りの排水を徹底し、内部へ水が入り込まないようにし、根腐れ防止に努める。

- 8) パイプハウスなどで露地状態にしている場合は、雨よけのために屋根部を被覆する。
- 2 露地栽培の管理
- 1) ほ場内の水をほ場外へ排出するために、排水溝を整備する。
  - 2) 肥料の流亡が予想されるので、葉色等を見ながら液肥の葉面散布など追肥を与える。
  - 3) 雨天の間隙をぬってでも、薬剤防除に努め、病害虫の多発を防ぐ。
- 3 品目ごとの管理
- 1) キ ク
    - ① 黒斑病、褐斑病、白さび病等、各種病害が多発するおそれがあるので、風通しをよくするとともに、薬剤による防除を徹底する。
    - ② 親株ほ場は、できる限りビニール等で雨よけをするとともに、白さび病等の防除を徹底する。
    - ③ 雨天、曇天日の電照時間は、通常より1時間程度長めにする。
    - ④ 花首が徒長しやすい品種やうらごけしやすい品種では、B-ナイン 500~800 倍液を散布する。
  - 2) カーネーション
    - ① 軟弱でしかも茎細に育っているので、整芽を徹底する。
    - ② 灰色かび病、さび病の発生が予想されるので、防除を徹底する。さび病については、発生を見たら速やかに病部位を除去する。
  - 3) マーガレット
    - ① 株の内部が蒸れやすくなるため、下葉や余分な枝は除去して、通風・採光を図る。
    - ② パイプハウスなどで露地状態にしている場合は、屋根部分のみビニール被覆して、降雨を防ぐ。
  - 4) その他草花類
    - ① 灰色かび病等の多発が予想されるので、換気と防除を徹底する。
    - ② 軟弱徒長に育っているので、かん水はやや控え目にする。

## 畜産

- 1 畜舎内外の環境整備

畜舎の周辺や運動場の排水溝の掃除をして排水に努める。  
畜舎内の通風と換気に努め、敷料は早めに交換するなど畜舎内の乾燥に努める。
- 2 ほ場の排水

飼料作物栽培ほ場の排水路の点検・整備により早期排水に努め、播き遅れや根腐れのないようにする。
- 3 家畜の管理

秋～冬にかけての長雨による気温の低下と湿度の上昇は家畜の体調悪化（呼吸器、消化器病など）を招きやすいため、換気は十分に行いつつ、すきま風が直接畜体にあたらないように配慮することで、疾病の蔓延防止につとめる。